

草津市老上学区 地区防災計画

地震災害編

生き残れ老上!!

ちからを合わせ いのちをまもる きょうも あしたも あさっても



老上学区まちづくり協議会
キャラクター
「おいかめちゃん」



老上学区まちづくり協議会
公式LINE

目次

- ◎みんなの防災計画
- ◎防災計画運用のための体制
- ◎想定される地震と被害の周知
- ◎地震発生時におけるマンションで想定される事態
- ◎在宅避難ができるための事前の備え
- ◎災害時のトイレの課題と備蓄の必要性
- ◎避難場所の周知
- ◎防災ネットワーク
 - ①平常時の活動
 - ②本部地震発生初動時の行動
 - ③構成グループ地震発生初動時の行動
 - ④連絡・情報伝達手段
 - ⑤交流と支援
- ◎協力事業所
- ◎構成グループの体制
- ◎次年度の計画
- ◎アイデア一覧
- ◎情報の収集と啓発
- ◎奥付
- ◎更新履歴

みんなの防災計画

- 老上学区地区防災計画「地震編」は大きな地震が起こったときに、地域で協力して私たちの命を守ることを目的にしています。
 - ⇒ 大規模・広域災害が発生して、個人や町内単位だけで、対処できない状況を想定しています。
- この計画は老上学区に住む人、働く人が自ら考え、運用するもので、老上学区に住む人、働く人及び発災時にこの地域に滞在している人、全てを対象にしています。
 - ⇒ 老上学区まちづくり協議会と老上学区防災ネットワークに参加する団体、個人で運用します。
- この計画は、継続して参加者を増やし、より良いものにしていきます。
 - ⇒ 老上学区防災ネットワークへの参加は随時受け付けます。また、毎年1月に計画を見直します。

防災計画運用のための体制

老上学区防災ネットワーク

本部

本部長 : 老上学区まちづくり協議会 会長
副本部長 : 老上学区まちづくり協議会SOS委員会 委員長
本部員 : SOS委員
老上学区まちづくり協議会 役員
老上学区まちづくり協議会 事務局員

構成グループ

- | | |
|-------------------|-------------------------------------|
| 1. 野路町川ノ下町内会 | 12. レジェ南草津Ⅱ |
| 2. 南笠町内会 | 13. ブリリア南草津駅前 |
| 3. 野路下北池町内会 | 14. ジオ南草津 |
| 4. 湖州平自治会 | 15. ジオ南草津フロントステージ |
| 5. 南草津団地自治会 | 16. ベルヴィ南草津 |
| 6. 大町町内会 | 17. パデシオン南草津駅前 |
| 7. アメニティ南草津Ⅱ町内会 | 18. 特別養護老人ホームやわらぎ苑
特別養護老人ホームしあわせ |
| 8. プリムタウン第1町内会 | 19. 老上学区社会福祉協議会 |
| 9. 南草津西町内会 | |
| 10. シャリエパークナード南草津 | |
| 11. レジェ南草津 | |

- 継続して、町内、マンション、公共・民間施設、企業の新たな参加を働きかけます。
- 個人参加のSOS委員募集も随時行います。

想定される地震と被害の周知

- 琵琶湖西岸断層帯等の直下型地震や南海トラフ巨大地震の海溝型地震が発生すると、老上学区でも命に関わる人的被害、家屋の損害など物的被害、そしてインフラ被害をもたらす可能性があります。
- 被害の予測は様々なデータとともに国、県、市などの機関から公表されています。
- 【例】 ○全国地震予測地図(政府地震研究推進本部)
○滋賀県地震被害想定、滋賀県防災情報マップ(滋賀県)
○草津市防災アセスメント基礎調査(草津市)
⇒ インターネットでの検索方法と老上学区に適応したものを周知します。
- 想定される災害の最新情報を入手し、老上学区防災ネットワークを通じて周知します。
⇒ 毎年1月の計画見直し際に最新のものであることを確認します。

地震発生時における マンションで想定される事態

マンションの防災性能

- 1981年以降の新耐震基準で建設されたマンションは耐震性に優れている
- 耐火構造のマンションが大半であり耐火性にも優れている

必要な備えができていれば在宅避難が可能！

マンションで想定される事態

- 揺れによって家具・家電等が倒れる
※長周期地震動では高層階ほど揺れが大きくなる
- ライフライン(電気・ガス・水道)が止まる
- トイレが使えなくなる
- 情報が手に入らなくなる
- エレベーターが停止する
- エレベーターに閉じ込められる人がいる
- 水や食料を高層階に運搬するのが難しくなる
- マンション設備や建物に破損・被害が出る

マンションの物理的な被害は軽微でも上記の事態により
広域避難所での避難を余儀なくされるかもしれない！

在宅避難ができるための事前の備え

■ 自宅の安全対策

- ・耐震化
- ・家具の転倒防止対策

⇒ 地震で自宅の中が散乱してしまえば在宅避難は困難

■ 生活用品(食料品、飲料水、携帯トイレ)などの備蓄

- ・飲料水:3 リットル×人数×7 日以上
- ・食用品:3 食分×人数×7 日以上
- ・携帯トイレ:5 回分程度×人数×7 日以上

⇒ ライフラインが途絶えたことを前提に備蓄を見直す

■ 正確な情報の入手・共有

- ・正確な被害情報や生活情報を手に入れる方法を考える
- ・安否情報を近所の人に知らせる方法を考える

災害時のトイレの課題と備蓄の必要性

- 発災から3時間以内に 38.5%の人々がトイレに行くと言われていても関わらず、災害発生後に仮設トイレが3日以内に行き渡った自治体は僅か 34%であり、携帯トイレをあらかじめ備蓄しておかないと、災害時にトイレができない可能性があります。
- トイレを我慢しているとエコノミークラス症候群による災害関連死につながるなど、**健康に悪影響を及ぼします。**
- 在宅で避難生活を送るためには、携帯トイレの備えが欠かせませんが、携帯トイレの備蓄数は、**人数×排泄回数×避難日数**を掛け合わせた数が必要だと言われています。

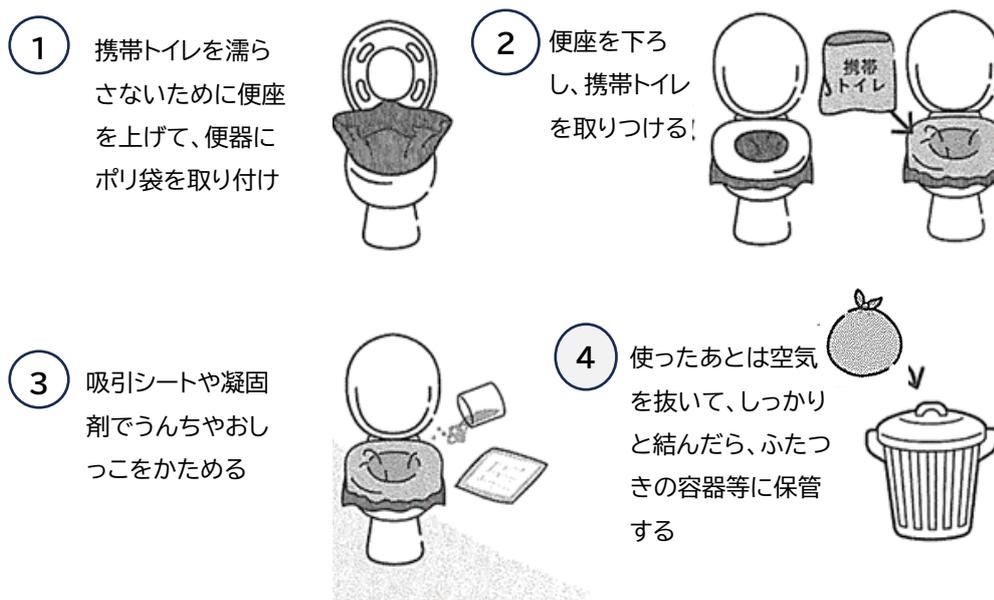
(例)4人家族が1週間に必要な携帯トイレの数

$$4人(人数) \times 5回(排泄回数) \times 7日(避難日数) = 140回分(携帯トイレの必要数)$$

- 災害時には携帯トイレを以下の方法で使用します。間違った使い方をしてしまうと不衛生な状態になり、集団感染を引き起こすことにもつながりますので、**平時から携帯トイレの使い方を身につけておきましょう。**

携帯トイレの使い方は？

※ 加藤 (2024) より引用



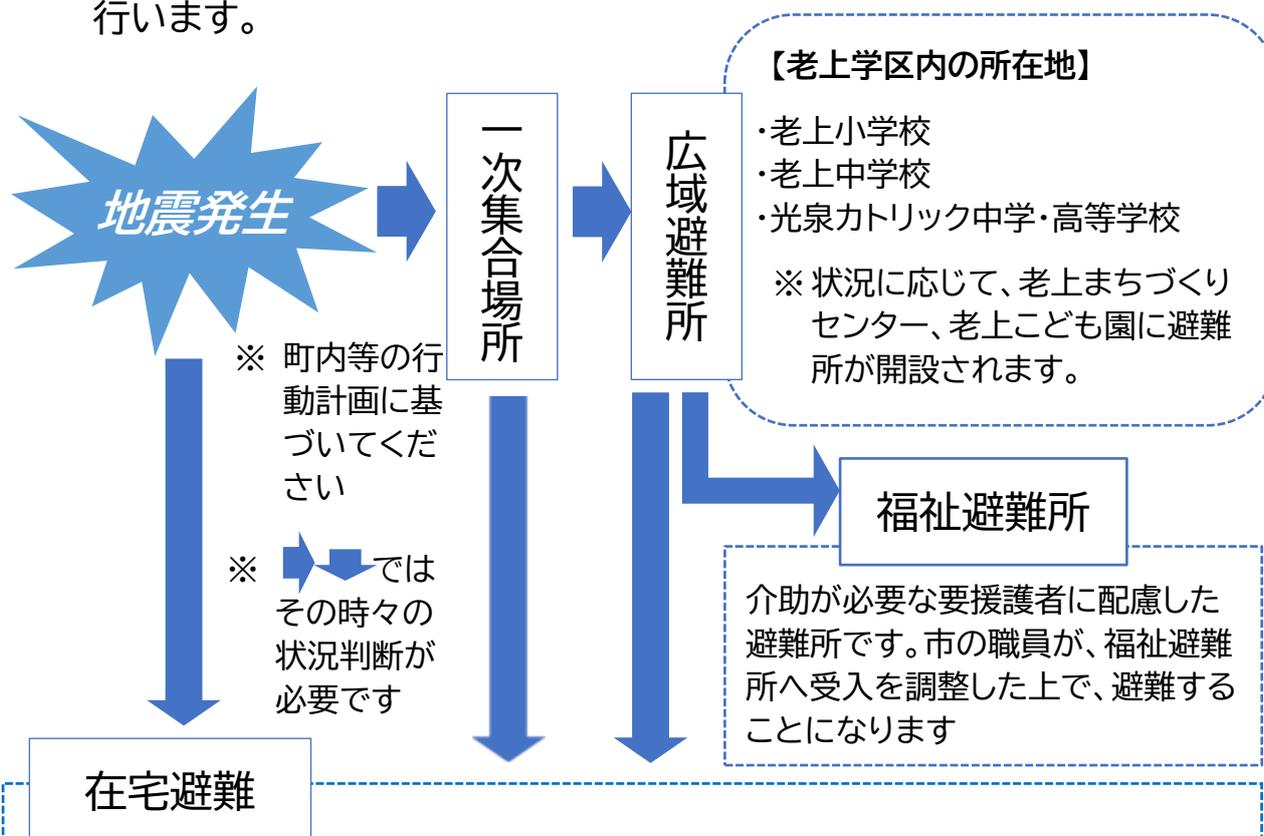
【参考文献・資料】

- ・加藤篤一(2024)『トイレからはじめる防災ハンドブック』学芸出版社
- ・NPO 法人日本トイレ研究所「災害時のトイレ対策」<https://www.toilet.or.jp/disaster/>

「避難場所」の周知

どこに避難すればよいのか？

- 避難の方法は一通りではありません。そのときの状況に合わせて、迅速に避難の判断と行動ができるように、町内・団体とともに訓練と研修を行います。



- 避難所の受け入れ人数には限界があります。
- 自宅が安全なら、自宅があなたの避難所になります。
- ⇒ 在宅避難のための備え(自宅の安全対策、備蓄品など)を広報、研修会などで周知します。
- ⇒ 支援物資配布などの情報を、構成団体を通じて在宅避難者に伝えるようにします。(安否確認などで所在を明らかにしてください)

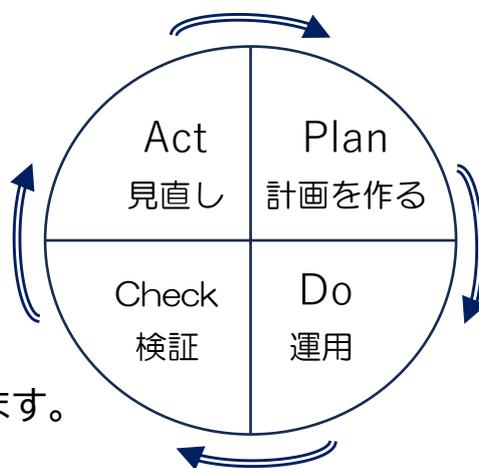
①平常時の活動

ネットワーク体制の維持・運営

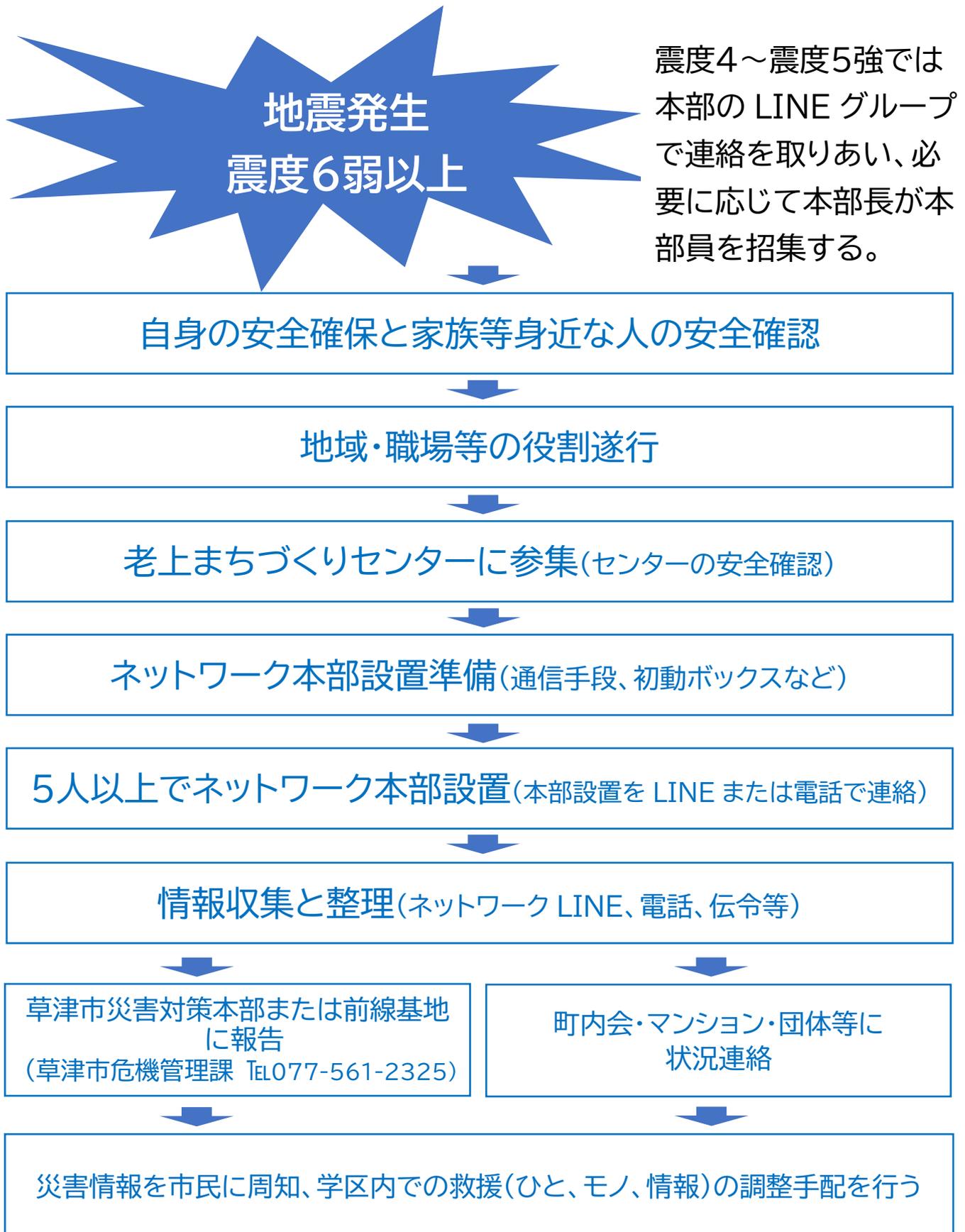
- 全体会議を年3回、まちづくり協議会会長が招集し、開催します。必要に応じて、臨時に開くこともあります。
- 事務局としてのSOS委員会を2か月に1回程度開催します。
- SOS委員は「老上みらい応援隊」として、老上学区の内外から公募し、まちづくり協議会会長が選任します。正副委員長は委員の互選によります。
- ネットワーク参加組織は、連絡担当者(正副)を常に登録するものとし、変更がある場合は速やかに更新します。
- 役員交代の際に、各団体でLINE招待・退会をし、常に最新メンバーで防災ネットワークLINEグループを構成します。

継続的に地域防災力を向上させます

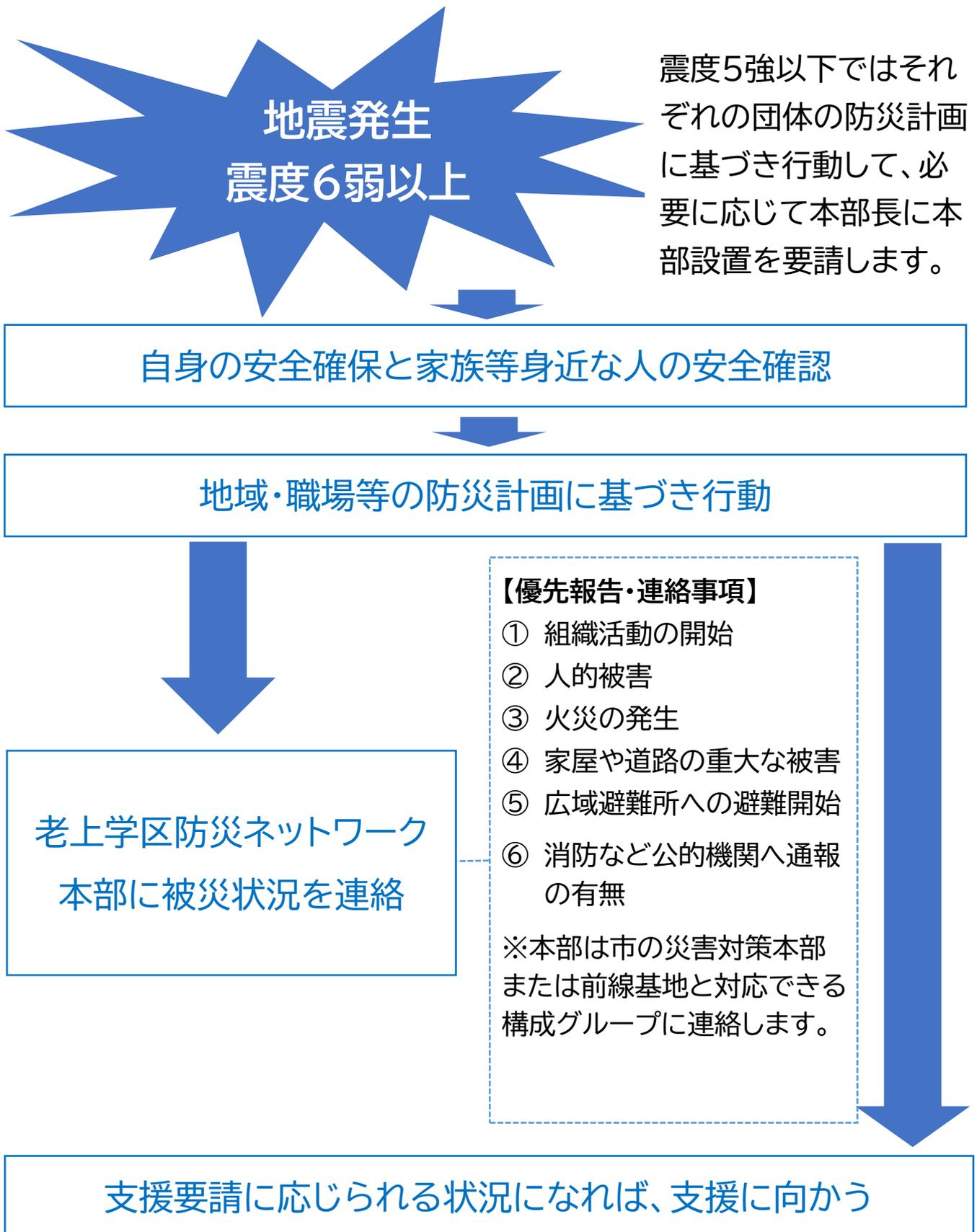
- 研修会と災害時に備えた連絡・調整訓練を各年1回、老上学区まちづくり協議会の企画により実施します。
- まちづくり協議会とSOS委員会はネットワーク参加団体と個人参加のSOS委員を増やす取り組みを進めます。
- 毎年1月にこの計画内容をチェックし、課題を明確にして、よりよいものに改定します。
- SOS委員会は広報活動を行います。



②本部地震発生初動時の行動



③構成グループ地震発生初動時の行動



防災ネットワーク

④連絡・情報伝達手段

平常時

災害発生時

電話

- 本部(老上まちづくりセンター)
077-564-1430
- 防災ネットワーク担当者
各自の電話番号

連絡・報告

LINE

- 本部グループ
- SOS委員グループ
- SOS役員グループ
- 防災ネットワークグループ

連絡・報告

まちづくり協議会の広報

- 老上学区まちづくり協議会
ホームページ
- 老上学区まちづくり協議会
公式LINE

災害関連
情報を発信

- 状況により対面(伝令)など可能な方法を用います。
- LINE グループへの登録をお願いします。
- トランシーバーなどの他の方法も検討し伝達手段を増やします。

⑤交流と支援

交流

- 研修会で行う情報交換や、それぞれの防災訓練の見学などで、良いところを取り入れていきます。

支援

- 構成グループが保有している防災機材リストを把握し、災害時に要請があった場合の支援に役立てます。

《参考》防災機材リスト（下記を参考に防災機材の備えの充実をお願いします）

品名	数量	品名	数量	品名	数量
小型動力消防ポンプ	2	大ハンマー・かけや	1	テント	10
軽可搬式消防ポンプ	2	リアカー	1	ブルーシート	6
消火栓 BOX	39	担架	1	石油ストーブ	1
救助工具セット	1	携帯拡声器	2	草刈機	2
チェーンソー	1	発電機	2	自走式草刈機	1
バール	1	投光器	6	トランシーバー	6
スコップ	1	コードリール	8		

協力事業所

草津市は多くの市内民間事業所と災害時応援協定を結んでいます。これとは別に、老上学区防災ネットワークでは学区内の事業所に協力を依頼しています。

レーク滋賀農業協同組合老上支店		草津紙器株式会社	
野路町 514-1		南笠町 945	
《事業内容》 信用・共済・購買・販売・介護福祉等の多岐にわたる事業		《事業内容》 段ボール加工組立	
《協力いただける内容》 駐車場、AED		《協力いただける内容》 段ボールの提供	
ロマン楽器株式会社		(株)熊川工務店	
南草津 5 丁目 3-3		矢橋町 301	
《事業内容》 楽器販売/音楽教室 カルチャー教室		《事業内容》 建築業	
《協力いただける内容》 駐車場・(一時的)館内避難 ※平常時活動にて、防災意識を高めるためのイベント開催をする際に、3階ホールを提供する。(収容人数は最大180名)		《協力いただける内容》 大工道具を持って支援にあたる。	
《事業内容》		《事業内容》	
《協力いただける内容》		《協力いただける内容》	

協力事業所

《事業内容》		《事業内容》	
《協力いただける内容》		《協力いただける内容》	
《事業内容》			
《協力いただける内容》			
《事業内容》		《事業内容》	
《協力いただける内容》		《協力いただける内容》	

※協力事業所は順次増やしていく予定です。

構成グループの体制 野路町川ノ下町内会

特徴

- ・一部高齢化が進んでいますが、南草津駅開業及び西部土地区画整理事業に伴い、戸建住宅・マンションが急激に増え、町内会も増大傾向にあります。
- ・地域の三大大行事(祭礼、納涼祭、運動会)でコミュニティの場を設け町民相互の交流の促進を図っています。

防災の取り組み

- ・年4回の消防訓練の実施と町内一斉の防災訓練(11月)に実施しています。
- ・役員の防災研修として体験学習を年1回実施(2月)しています。

防災活動の課題

- ・高齢者及び障がいのある方の避難時の支援体制に不安があります。(車椅子や担架等の設備の不足)
- ・マンション住民の避難訓練及び防災訓練が町内会との連携が取れていません。(町内行事には基本的に参加を望まない住民が大半)

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 町内12箇所 (各班ごとに指定)

二次集合場所

- 川ノ下集会所 ● 町民センター
- JA前駐車場

町内避難所

- 川ノ下会館

その他

町内会に入らない世帯

- ・町内会の入会は行政として任意としている為入会を拒む人が最近増えている。賃貸マンションの場合住民の転入出があるため把握が難しいので入会されていません。
- ・高齢者は町内行事の参加及び近隣との付き合いが無理なために町内会の退会を希望する人が増えています。

構成グループの体制 南笠町内会

特徴

- ・南草津プリムタウンと併合に伴い、若年世帯が増加し活気がある町内会になりました。
- ・大きな公民館及びグラウンド・各公園があり、各施設ごとに遊具等が設置しています。(グラウンドゴルフ・野球・バスケ・運動会等)
- ・老人クラブではカラオケや百歳体操等が行われています。
各委員会の活動(夏祭り・ボウリング大会・ソフトボール大会・地区運動会・美化運動等)を実施しています。

防災活動の課題

- ・南草津プリムタウンの併合で、組織が大きくなり統制が取れません。(併合後、初めて避難訓練を実施しました)
- ・防災役員が毎年交代するため役員層が薄いです。
- ・世帯が急増中のため、備蓄食料品の確保が課題です。
- ・災害弱者の把握はできていますが、訓練の実施実績がありません。
- ・役員が仕事で町内にいない。補助者が高齢化でスムーズに対応ができるか不安です。

防災の取り組み

- ・経験豊富な防災役員の固定化で、訓練計画策定や実施が良い方向に進んでいます。
- ・毎年2回の研修会及び避難訓練を実施しています。
- ・防災みなみがさの発行(年2～3回)しています。
- ・消火班にて、毎月1回の消火訓練を実施しています。
- ・防災名簿(グループ・班別の組織表)を作成し、各戸に配布しています。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 南笠公民館
- 笠堂公園
- 中堂公園
- 旧会議所跡
- モンチ保育園
- 廣野公園

※世帯数増加で集合場所が増える。集合場所で避難者名簿にて安否の確認。

二次集合場所

- 南笠公民館
- ※グループ長他から、情報を集約し救出救護・給食給水に当たることにしています。

広域避難場所

- 老上小学校
- 老上まちづくりセンター等

構成グループの体制 野路下北池町内会

特徴

- ・町内会が出来て40年、住宅分譲で移住された方を中心に組織された町内会です。町内の特徴一部自営業等の方がいますが、殆どがサラリーマン家庭です。
- ・前記の通り40年たつ町内会の為、高齢化が顕著に表れています。60歳を越える世帯は、全体の70%を占めています。
- ・第一親世代から第二世代(子ども)に一部移行していますが、一部空き家、転売等が進んでいます。

防災活動の課題

- ・一部建物の老朽化が進んでいます。
- ・高齢者が多く、避難等課題が多いです。
- ・町内の皆さまへの避難指示が町内会単独では困難です。
- ・世帯調査は完全ではないが、個人情報保護の観点から、完全な整備が難しい。

防災の取り組み

- ・自主防災会を町内会組織と共に組織して、年に3~4回防災訓練を実施。避難、通報、消火訓練を行っています。
- ・防火機器は、消火器をはじめ、消火栓設備を町内に配置して維持管理しています。
- ・要支援者を中心に世帯調査を実施し、家族構成等を整備しました。情報は班長が把握し、災害時の救助や安否確認に活かします。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 集会所

二次集合場所

- 光泉カトリック中学校高等学校

※ 避難体制と避難場所、二次避難場所は、隣の光泉高校であり、比較的避難は徒歩で容易に行えます。

特徴

- ・湖州平自治会は、令和5年で、自治会創立50年を迎えました。世帯数約350世帯、自治会員の高齢化も進んでおります。一部ではありますが、空き家もあり、現在、自治会のほうから草津市へ適切な対策のアドバイスをいただくよう働きかけを行っております。
- ・自治会未加入の世帯についても、自治会のほうから加入促進を行っておりますが、高齢による退会や、ライフサイクルの多様化により、転居後、当初から自治会に加入されないケースも発生しています。

防災活動の課題

- ・自治会や自主防災会より、回覧等を通じて、防災意識を高める案内や行事等を行っているものの、どうしても一方的になる部分があり、行事についての参加率は低い状態にあります。実際の災害時に会員がスムーズに避難や避難生活が送れるのか不安があります。高齢者も多くなっているため、介助の必要な方の避難についても十分に対応ができるのか課題があります。

防災の取り組み

- ・自主防災会を組織し、防災関連の各訓練や、夜間パトロール等、日々活動しております。しかし、自主防災会についても、自治会同様、高齢化が進んでおります。若手会員の募集を積極的に行っているものの、仕事や家庭の事情等により、新規加入が少なく、十分な人数での活動ができていないのが現状です。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 湖州平南公園
- 湖州平北公園

広域避難場所

- 老上中学校

※ 避難体制については、一次集合場所で、組単位の集合とし、自治会本部役員と自主防災会、防災ネットワーク担当が中心になり、学区と連携をとりながら避難をすすめる体制となっています。

構成グループの体制 南草津団地自治会

特徴

- ・南草津団地総世帯数290余世帯、近年高齢化が一段と進んでいます。毎月、ほのぼのサロン等積極的に開催しています。
- ・新入生付添い見守り、児童公園を中心に美化、アルミ缶等資源回収… ボランティアグループにて実施しています。
- ・年2回町内一斉清掃を実施しています。
- ・夏祭り…200世帯以上参加しています。

防災の取り組み

- ・防災消火設備等の自主点検を随時実施しています。
- ・防災倉庫内の発電機を月1回始動点検しています。
- ・防災用具の老朽取替えを実施しています。
- ・町内防災訓練を年1回実施しています。

防災活動の課題

- ・地震、風水害の被害想定が自治会でできず、近年目立った災害が起きていない事で危機感が薄れています。
- ・高齢者の把握はできているが、援護体制が不十分である。
- ・備蓄飲食料がないので、各世帯での備えが必要である。
- ・防災組織の強化が必要である。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 南草津団地児童公園(カンガルー公園)
- 橋岡第7児童公園

町内避難所

- 自治会集会所 (許容人数30名程度)

※自治会集会所は広域避難所との中継とします。

構成グループの体制 大町町内会

特徴

- ・全世帯数:約80 (外国の方約40世帯)
(町内会加入世帯数:約20)
(70才以上約30名)
- ・高齢化が進み、空部屋が多かった団地が
今では若い人が増え、小さな子ども達もい
てにぎやかです。
- ・月1回のサロンを行い、毎回約10名参加し
ています。

防災の取り組み

- ・市からの災害救助用工具を設置していま
す。
- ・階段ごと部屋の前に消火器を設置してい
ます。

防災活動の課題

- ・高齢化が進んでおり、災害時どうすればよ
いか？
- ・若手の外国の方と日頃からコミュニケー
ションを取る。
- ・昔は団地への出入り口が3ヶ所あったけど
今は1ヶ所。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 団地入口

広域避難場所

- 老上小学校

構成グループの体制 アメニティ南草津Ⅱ 自治会

特徴

- ・合計48戸のこじんまりとした自治会です。自治会役員は管理組合役員と兼任です。自治会長、副自治会長、防火管理者、監査の計4名で構成され、持ち回りで担当、役員の任期は1年間、従って自治会長も毎年交代しています。

防災の取り組み

- ・自主防災組織を構成し、隊長は管理組合理事長、副隊長は副理事長、自治会長、防火管理者及びフロア班長の計16名で取り組んでいます。
- ・毎年秋に避難訓練を実施しています。昨年は11月2日、地震発生を想定し119番への通報、36名が参加して住民の避難訓練を実施しました。
- ・湖南広域消防局南消防署にも参加いただき避難の講評の中で自主の重要性についてお話しいただきました。また元消防士で防災士の資格を持つ管理員さんからマンション備え付けの担架や災害用救助工具などの使用手順の説明を聞きました。

防災活動の課題

- ・各フロア班長が声がけして避難する手はずになっていますが、避難に支援を要する方が6名おられ、緊急時にスムーズな避難ができるか不安です。尚、上記6名は草津市避難行動要支援者に登録済みです。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- マンション北側河川敷

※緊急時には館内放送で一斉避難を呼びかけ各フロアのフロア班長が声掛けして、避難非常階段(2箇所)を使って避難することになっています。

構成グループの体制 プリムタウン第1町内会

特 徴

- ・新しい住宅街であり若年層の方が比較的多いです。
- ・町内会も発足して数年で日が浅く加入者も年々増えている町内会です。

防災の取り組み

- ・防災便りの回覧を行っています
地区防災計画策定委員会に参加し地域・地区防災に活かしています。

防災活動の課題

- ・町内会独自の集会所や災害対策備蓄品もありません。

避難体制と避難場所

一次集合場所



広域避難場所



※町内会としては決めておりません。

特 徴

- ・町内会発足10年
- ・総世帯数:71戸
- ・新区画が造成されつつあり、加入者が増えています。

防災の取り組み

- ・移動式消火栓器具箱の点検を実施
- ・消火ホースの点検を兼ね、消防署で消火訓練を実施

防災活動の課題

- ・世帯調査は個人情報保護の観点から、整備が難しい。
- ・介助が必要なかたの把握は出来ているが、個人情報保護の観点から共有化が難しく、災害時の連携が出来ない。

避難体制と避難場所

町内避難所

- 野路池ノ内公園

広域避難場所

- 老上小学校、老上中学校

構成グループの体制 シャリエパークナード南草津

特徴

- ・高齢者が増加傾向にある反面、入居者の入れ替わりがある時に若い方が入居され子供が増えています。
- ・共用施設を利用し居住者同士のコミュニケーションづくりが盛んに行われています。

防災の取り組み

- ・年1回秋の防災訓練を実施しています(通報訓練・避難訓練・消火訓練)。
- ・防災意識を高める為、年1回自衛消防隊の組織とその役割、避難時に使用する階段、消火器設置位置等の書面を作成し全戸配付しています。

防災活動の課題

- ・高齢者、要介護者への避難対応等の不安を感じています。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- マンショングランドエントランス(1階)

二次集合場所

- JR南草津駅西口前広場

広域避難場所

- 老上小学校

特徴

- ・総世帯数:131戸
- ・理事会でマンションの課題など様々な取り決めを行なっている。

防災の取り組み

- ・避難訓練
- ・防災カフェ開催でのつながり作り
- ・LINEオープンチャットでの安否確認
- ・消防、消化設備の点検を年2回
- ・自主防災組織立ち上げに向けての検討

防災活動の課題

- ・エレベータ停止時の高齢者の避難や高層階への物資輸送の不安。
- ・地震後にタワー式駐車場の車が使えなく可能性がある不安。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 玄関エントランス前
- ※ 町内の避難場所:なし

構成グループの体制 レジエ南草津Ⅱ

特徴

- ・15階建て総戸数72戸(住宅70戸、店舗2戸)の集合住宅。
- ・若い世代からお年寄りまで居住するファミリー向けマンション。

防災の取り組み

- ・年一回の消防訓練を実施(直近では令和8年1月)。
- ・エントランスにAEDを配置。
- ・集会室に防災用資材(携帯トイレ)をストック
- ・予算を取り理事会で防災用品(ボール等)や備蓄品の購入検討を行なっている。

防災活動の課題

1. 地震 2. 火災発生時に不安要素あり
1)比較的新しい設計のマンションであるため、耐震構造になっているため、全壊等のリスクは低いと想定。
2)第一の危険性は、家庭内のタンスなどの倒壊時の下敷きになるリスク。要介助者の場合には避難手段がリスクとなります。(組合では要介助者のリストを所持していません。)
3)一時避難場所が正面の駐車場横部分しかなく、スペースが不足。
4)公共機関からの明確な役割分担の情報提供もなく、防災計画も不明である点が不安要素です。市の備蓄状況や災害時の対応方法スケジュールなどについても情報提供が必要。
5)地震の際には48時間～72時間の備えが必要だと想定されているが、それだけの備えがされている住戸は希少だと推定。
3. 水災
基本的に近くに大きな河川はなく、最寄りの狼川が天井川であるが水量が少ないのでそれほど大きな被害は想定していない。(駐車場の浸水はあるかもしれない)
4. 風災
暴風により周辺の建造物の一部が飛来し、破損を引き起こす可能性などが考えられるが加入中の火災保険で対応出来る範囲と認識しており、特に不安要素ではない。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- マンション正面の駐車場横通路

※かなり狭いため住民全員が避難できるようなスペースではない。このため、大規模災害の場合には順次広域避難所に移動する必要あり。

- ・毎年理事が選出され、その中から防災担当が選出される。防災担当は基本甲種防火管理者の資格を有する、または取得を義務づけているため一定の知識を有しているものと考えている。

構成グループの体制 **ブリリア南草津駅前**

特 徴

- ・子育て世帯から高齢者世帯、単身からファミリーまで幅広い層が居住、ペット飼育可能
- ・15階建て全96戸、店舗2戸
- ・エレベーター2基、非常階段2箇所あり

防災の取り組み

- ・防災訓練:年1回の消防・避難訓練を実施
- ・管理組合に防災担当理事を配置
- ・エントランスにAEDを設置

防災活動の課題

- ・非常階段利用時の身体的配慮が必要な方への対応
(要援護者の把握、避難支援方法の策定)
- ・設置防災具(AED、消火器など)の使用法の周知
- ・災害発生時の連絡体制の構築

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 各自マンションの駐車場に集まる。
- 避難体制:エレベーターを使用せず、非常階段を使用する。

構成グループの体制 ジオ南草津

特徴

- ・65戸のマンション。

防災の取り組み

- ・年1回 消火、救助訓練の実施
- ・災害発生時に備え防災用品備蓄
- ・災害発生時に各戸の避難状況を把握できるよう、玄関扉の外側に貼れる避難済マグネットシールを配布

防災活動の課題

- ・マンションのため高層階→地上への移動
特に高齢者や子ども

避難体制と避難場所

一次集合場所

- マンション駐車場

構成グループの体制 ジオ南草津フロントステージ

特徴

- ・14階建て 全48戸
- ・幼児から高齢者まで幅広い年齢層が居住するマンション

防災の取り組み

- ・火災報知器、避難梯子の定期点検
- ・消防訓練の実施

防災活動の課題

- ・子供が比較的多いので、非難誘導や避難場所での対応がうまくできるか不安。
- ・高齢者、要介護者への避難対応等の不安。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- マンションエントランス付近

特徴

- ・マンションの築年数が進むにつれ、居住者の入れ替わりが多く住民同士のつながりが少々薄くなってきたように思われる。

防災の取り組み

- ・今後、オンライン視聴型の消防訓練を実施予定

防災活動の課題

- ・最上階が11階あり、居住者すべてが安全に避難できるかどうか。乳児・幼児、高齢者また要介助者がどの世帯にいるかなど。

避難体制と避難場所

- ※ 防災担当者と理事長で状況把握、そして老上学区ネットワーク本部へ連絡。

一次集合場所

- 南草津北公園

広域避難場所

- 老上小学校

構成グループの体制 パデシオン南草津駅前

特徴

- ・全138戸からなる大規模マンション。
- ・入居当初に比べて近年は賃貸での入居者も増え、住民の入れ替わりが活発である。
- ・世代は20代～80代と幅広く、子どもの数も比較的多い。

防災の取り組み

- ・防火理事の下に専門委員会として「防災委員会」が設置されている。
- ・安否確認を迅速に行うため、有事の際には防災委員会公式LINEをはじめ複数の方法で安否確認を設定している。
- ・地震発生時、火災発生時のマニュアルを作成し、全戸配布している。
- ・住民対象の防災講座を開催し、防災意識の啓発や、住民同士の交流を促している。

防災活動の課題

- ・防災備品が充実しておらず、特にライフラインが不通となった場合、各家庭の備えに頼らざるを得ない。
- ・停電の際はエレベーターが停止し、特に高層階で階段を使用することが難しい住民は長期間にわたり孤立する可能性が高い。
- ・マンションは構造上、外からの侵入が難しいため、独居者が負傷等で助けを必要とした場合の安否確認や、救助方法が課題である。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 地震時：マンションエントランスロビー
- 火災時：東山道記念公園

広域避難場所

- 老上小学校

構成グループの体制

特別養護老人ホームやわらぎ苑 特別養護老人ホームしあわせ

特 徴

- ・介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)は、入所者が可能な限り在宅復帰できることを念頭に、常に介護が必要な方の入所を受け入れ、入浴や食事などの日常生活上の支援や、機能訓練、療養上の世話などを提供しています。
- ・やわらぎ苑
(長期入所54名・短期入所10名)
- ・しあわせ
(長期入所29名・短期入所10名)
※計103名

防災の取り組み

- ・年2回 火災訓練(日中・夜間)
- ・年1回 風水害訓練
- ・年1回 地震訓練

防災活動の課題

- ・車いすのご利用者様が多く、避難をする際には、エレベーターなど止まると避難が難しい。
- ・特に夜間帯などに発生すると、少ない職員での避難となること。
- ・避難の際のご利用者の体調維持について、懸念されます。
(しあわせ)非常口が1か所しかない。

避難体制と避難場所

一次集合場所

- 施設駐車場又は治田神社

広域避難場所

- 老上小学校

構成グループの体制 老上学区社会福祉協議会

特徴

社会福祉協議会は、地域の皆様をはじめ、福祉・保健・医療・教育などに携わる関係者皆さんの参加・協力のもとに、当学区のよりよい「福祉のまちづくり」に寄与すべく活動を続けている非営利の民間組織です。

老上学区社会福祉協議会はまちづくりセンターを拠点に居場所づくり、交流の場づくりに努め、親しまれているカフェほっこりの開催、子育てサロン、地域福祉員活動、地域サロン、送迎サポートの支援等、医療福祉を考える会議でのピカッと草津の駐車場問題など、地域の団体や関係機関とのネットワークを通じ連携強化に努めています。

防災活動の課題

日常における地域福祉活動でのつながりが災害時にも活かされるという報告があります。

しかし、社協の役員は学区内の他の団体の役員でもあり、発災時に学区社協としてすぐに動ける体制ではありません。ボランティア支援を受け入れるのも発災後、時間が経過してからになるので、市社協の取り組みと連携していくことが必要と考えます。

防災の取り組み

阪神淡路大震災以降、被災者支援のボランティア活動が復興支援に重要な役割を果たしています。草津市では、大規模災害時において効果的なボランティア活動を推進するために、市が災害ボランティアセンターを設置します。その運営を草津市社会福祉協議会が行うように草津市との間で協定を結んでいます。災害ボランティアセンターは、「被災者を支援したいボランティアのニーズ（思い）」と「支援を受けたい被災者のニーズ（困りごと）」の窓口となり、双方の思いを「調整し、つなぐ」役割があります。また、ニーズの把握に努め、その解決を図るための役割を担っています。

老上学区社会福祉協議会は草津市社会福祉協議会が開催する防災に関わる各種の研修会や災害ボランティアセンター運営訓練に参加しています。

また、各地で発生した自然災害に対する義援金受付の活動にも協力しています。

令和8年度の計画

- 毎年1月に老上学区防災ネットワーク全体会議において決定
- 2026年度(令和8年度)の計画

【取り組み】

- (1) 学区防災の周知
- (2) 防災訓練・防災イベントの開催
- (3) 災害時要援護者への対応
- (4) 防災ネットワーク参加団体を増やす

【活動日程(予定)】

《老上学区防災ネットワーク》

◎ 全体会議	令和8年	5月16日(土)	10:30
	令和9年	1月23日(土)	10:00

※その他、訓練、啓蒙イベントは 実施決定後にお知らせします。

《SOS委員会》

	令和8年	5月16日(土)	9:00
		8月22日(土)	10:00
		11月21日(土)	10:00
	令和9年	2月27日(土)	10:00

アイデア一覧

- 防災計画をよりよいものにするために、常時具体案を出し、実行に移すものを次年度計画に反映していきます。

《広げよう もっと広く》

- 福祉関連施設・団体
- 学校、こども園、保育所、のびっこ…
- 未加入町内会、マンション
- ボランティア団体
- 医療機関(クリニック、薬局)
- 企業、商店

《繋げよう より強く》

- 他の町内会・マンション防災訓練を見学・交流
- 研修会・訓練・会議に参加しにくい人のためにオンライン活用
- オンライン上で自由に意見を出したり情報を提供する場を作る
- 「風水害編」の作成

《深めよう わがこととして》

- 防災訓練・防災イベントの実施
 - ① 情報伝達訓練バージョンアップ版
 - ② 防災運動会
 - ・防災用具を使った競技(運動会)やゲーム
 - ・子どもをターゲットにした防災イベント
 - ・楽しみながら体験する
 - ・防災意識を高め、知識を得る
 - ③ 避難所運営
 - ・防災グッズ使用体験会
 - ・非常食試食会
 - ④ 学区総合訓練
 - ⑤ かまどベンチを使って調理
 - ⑥ 町内会・マンション防災訓練に、防災ネットワーク連絡の項目を入れるよう要請する。

- 研修会
 - ① 予想される地震と被害
 - ② 「自助」の工夫と情報交換
 - ③ タイムライン防災
 - ④ 地震体験講話(体験者、消防士)
 - ⑤ SOS委員、防災支援者の養成
 - ⑥ 防災絵本読み聞かせ会(絵本提供)
- 広報・啓発
 - ① 「SOSネット老上」の発行
 - ② ネット活用 ホームページ、SNS発信
 - ③ 展示出展(ふれあい老上まつり)
 - ④ 地域住民同士の情報交換(各家庭の備蓄紹介)

情報収集と啓発(1)

【情報収集】

●草津市メール 配信サービス

市の情報をメールで 配信するサービスです。



●登録用メールアドレス kusatsu-touroku@sg-m.jp

●草津市公式LINE

イベントや市政情報、災害時の緊急情報など、草津市からのお知らせを配信します。



●アカウント名

草津市 / LINE ID : @kusatsucity

防災・防犯等の情報をはじめとする滋賀の安全・安心のための情報が配信されます。

◎しらしがメール

●登録用メールアドレス
login@pref-shiga-info.mailio.jp
※空メールを送信してください。



◎しらしがLINE

二次元バーコードから
「しらしが」を友だち追加



●屋外スピーカー電話自動応答装置

屋外スピーカーから拡声している内容を聞き取れなかった方やパソコンなどの操作が苦手な方のために、下記電話番号へダイヤルしていただくと、拡声内容が電話で確認できる装置を設置しています。

●電話：0120-119-932（フリーダイヤル・通話料無料）

●エリアメール・緊急速報メール

気象庁が配信する緊急地震速報、国や地方公共団体が配信する災害・避難情報を、緊急性が高い多くの方へ迅速に提供するため、NTTドコモの「エリアメール」、KDDI(au)、ソフトバンク、楽天モバイルの「緊急速報メール」に対応しているスマートフォン等へ、一斉に配信します。事前の登録は不要で、受信は無料です。

情報収集と啓発(2)

●えふえむ草津(FM78.5MHz)

有事の際には、えふえむ草津の放送で屋外スピーカーからの拡声情報と同様の音声がラジオやカーステレオなどで流れます。さらに、インターネットラジオの運用も開始されており、インターネット環境のあるパソコンやスマートフォンで、えふえむ草津のラジオ放送を聞くことができます。

●NHKデータ放送[d]ボタン

滋賀県と県内市町、さらには、NHK 大津放送局と災害情報システムが連携しており、各市町の避難情報を地デジのデータ放送で確認することができます。データ放送では、地震情報や河川の水位情報なども見ることができます。ぜひ一度、テレビリモコンの「d」ボタンを押してみてください。

●キキクル(警報の危険度分布)

気象庁が提供する「キキクル(警報の危険度分布)」は、大雨警報や洪水警報が発表されるような重大な災害が発生する恐れのある状況で、住まいのある地域の危険度の高まりを5段階の色分けで地図上に表示し、警戒を呼びかけるための情報です。

土砂災害警戒区域や洪水浸水想定区域等に住まいのある人は、「キキクル」で土砂災害や浸水害、洪水災害の危険度の高まりを確認しながら、命を守るため、早めの避難行動の判断に役立てましょう

(草津市ホームページ 防災 災害時の情報伝達手段一覧 から)

【インターネット】

- 全国地震予測地図(政府地震研究推進本部)
- 滋賀県地震被害想定、滋賀県防災情報マップ (滋賀県)
- 草津市防災アセスメント基礎調査(草津市)

【啓発】

- 情報収集方法を習得し、研修会等で利用方法を周知していきます。
- 得られた情報を必要に応じて、広報していきます。

奥付

老上学区地区防災計画策定メンバー

委員長	老上学区まちづくり協議会	会長	山本 清治
副委員長	老上学区まちづくり協議会安全安心部会	部会長	古川 謙治
SOS委員会		委員長	磯嶋 玲子
		副委員長	寺尾 善明
		副委員長	山本 次郎
		委員	8名
防災ネットワーク担当者・団体代表			23名
老上学区まちづくり協議会事務局員			
策定支援	草津市危機管理課		松岡 秀樹 徳田 安雄
アドバイザー	龍谷大学 政策学部 准教授		石原 凌河
	龍谷大学大学院政策学研究科 学生		福島 麻斗
業務委託	一般財団法人関西情報センター	チームリーダー	坊農 豊彦 西田 佳弘 前川 良栄

令和6年3月 策定

